

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑨



「埼玉から栃木の畜産農家へ雇用就農」

私は幼少期から動物が好きで、将来は動物関係の仕事をしたいと思っていました。また、農業にも興味があったため、実家は埼玉の非農家ですが地元の農業高校に進学しました。高校にはたくさんの動物がいま

したが、特に牛に興味を持つようになり、卒業後もさらに畜産を学びたいと思い、畜産の盛んな栃木県の農業大学校に入学しました。

農大に入学すると、高校では学べなかつ



た肉牛にも触れる機会があり、和牛の肥育や繁殖に特に興味を持ちました。1年生の9月に実施した先進的経営体実習では、宇都宮市の和牛繁殖農家さんで実習をしました。高校時代から様々な実習を経験して、畜産の大変さよりも、それに勝る「楽しさ」や「やりがい」を実感できました。そして、畜産を将来の仕事にしようと決心し、来春からは栃木県内の和牛繁殖経営農家の従業員として働くことに決めました。

現在、牛の飼養管理について、座学や実習、農場当番作業を通じて学んでいます。そして、農大の牛をより良くしようと努力

しています。牛にはそれぞれ個性があるので、牛の気持ちを第一に考え、牛にとってよい飼養管理を心がけています。さらに、家畜人工授精師の資格取得や卒業論文にも励んでいます。

今まで培ってきた経験を活かし、教わったことをやるだけでなく、自分でも考えて行動できる畜産従事者になれるように、これからも頑張りたいと思います。

(畜産経営学科・鳥海みなみ)

「アメリカ海外派遣農業研修に臨んで」

我が家はガラス温室を中心に約30aの温
とを決心しました。

室でカトレアの切り花栽培を行っています。

アメリカ研修では、日本国内にはないア

以前から、「就農する前に色々なことを経

アメリカの大規模な花き経営での栽培のシス

験し視野を広めたい」、それが自分の思い

テムや様々な販売方法など先進的な考えを

でした。そのため、自分が経営を担った時

学んできたいと思います。経営規模は全く

に活かせるよう、アメリカへ研修に行くこ

異なりますが、我が家の経営に足りないも

のや改善すべきことなど、大きなヒントを
与えてくれると思います。

もう一つの目的は、言葉が通じず文化も
全く異なる海外に一人身を置くことで人と
して自立することです。

変化の激しい今の時代に対応することが
できるよう、この海外研修で様々な知識や
技術、そして先進的な考え方を学んできた
いと考えています。そして、それ以上に人
とのつながりをつくってきたいと思っています。
さらに何事にもへこたれない度胸をつけた
いと思っています。

アメリカでの大規模経営農家での1年半
の研修で、農業者として自立できるように、
そして、そこで得る様々なことを将来の目
標の実現に役立てたいと思います。

来年の3月からが私の本当の独り立ちで
す。

（園芸経営学科花き専攻・渡辺一樹）





地域とふれあい 家族ぐるみ楽しむ

晴天に恵まれた十一月二十五、二十六の両日、第四十一回農大祭が開かれ、家族連れを中心に五千三百人がつめかけた。

アリーナの白菜、大根など野菜の直売テントには開幕を待ちかねた人

たちの長い列ができた。

午前十時、花火が打ち上げられるとお目当ての花や農産物にドツと殺到、瞬く間に売れていった。県産ブランド米の「とち

農大祭に5300人

ぎの星「なすひかり」などが飛ぶような売れいき、次々に台車に乗せて運ぶ姿が見られた。



軒を連ねた出店では、農業未来塾の名物「豚汁」や「いも串」、農大生が一生懸命作る「おしるこ」「あんころもち」と「もつ煮」に人気が集っていた。

「子牛ふれあい牧場」には家族連れが集り、子供たちが人懐こい牛にエサをあげたり、なでたりして大喜び。記念撮影する人たちもいた。

「咲かせよう 栃農大に130人の華」



未来塾名物の「豚汁」



